

2025 年度 探究型カリキュラム各授業学習目標・授業目標 科目名：2 年 AI 活用

高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning				
1. 自分事として ＜オーナーシップ／一人称＞	2. 社会/実践を通して ＜PBL 型/アクション＞	3. 知識を大事に ＜自ら得る知識/高める関心＞	4. コミュニケーションを通して ＜自分/他者のやりとり＞	5. 生徒・教員が共に ＜共に探究する関係性＞
上位学習目標				
【知識・技能】 ・社会で用いられている AI 等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・簡単なプログラムを使って実際に AI を動かすことができる 【思考力・判断力・表現力】 ・社会的課題について調べ、AI 等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる ・AI が人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る ・上記事項について、他者に適切に提示／説明することができる 【学びに向かう力・人間性】 ・AI や新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをを用いて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AI などに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる				
下位学習目標				
【知識・技能】				

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
	本時の具体的な目標 ・「学びの記録」の書き方を知る ・AI が広く社会でどのように話題になっているかを知る ・散らばった情報を協働して分類することが出来る		
時間 授業内容	5 限 6 限	5 時間目：西室先生による探究の説明 6 時間目：個人活動とグループワーク。 1) グループワーク A) まずは個人で新聞記事を読む、適宜線を引く B) 4 人 1 組で新聞記事をロイロを使って分類する C) グループの代表者がロイロ提出箱に提出(本日授業内で) ・メンバー全員のクラス、番号、名前を記載 ・どのような基準で分類したか、も記載 D)送る機能で分類カードを共有 2) 個人ワーク A)日経新聞の web へ行き、AI 関連の記事を 10 個見つけて WEB カードにする B)グループで分類したところに自分の web カード进行分类する C)自分は興味を持った分類に丸をつけて、提出箱に提出(4/22 授業開始まで) D)「学びの記録」を記入する(4/22 の授業開始時に提出) ・「知識/事実」は新聞記事を通して知ったことを書く = K(now) ・「考察」は、今回知った K と、既に知っていたや体験したことがあることを考察し、 これからどのようなことを知りたいか、知らないとい、けないかを書く = W(ant to know)	
評価方法	観点1 知識		
	A	論点をしっかりと整理して記述できている	
	B	論点をある程度整理して記述している	
	C	論点があまり整理して記述されていない	
	観点2 考察		
	A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる		
C	表層的な感想や意見にとどまっている		
宿題指示	学びの記録、個人とグループのロイロカード（4 月 22 日提出）		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「AI 活用人材」についての概観をつかむことができる ・Chat GPT がどのようなものでどう活用できるか考えることが出来る		
時間 授業内容	5・6 限	学びの記録回収 関西学院大学工学部 巳波 弘佳教授による講義とワークショップ 「急激な進化にあなたはどのように向き合うか」AI×○○という視点、Ai を教育活動にどう取り入れられるか。3 人一組のグループワーク 【生徒たちの回答】	

	・家庭科×AI、美術×AI、自主学習×AI、教員の教材研究×AI、体育×AI AIで楽をするのは×自分自身の成長がない⇒AIをうまく使いこなす、活用する。 必要とされるのはAI活用人材。 佐藤先生からのまとめ この2週間で日常生活において以前よりも「AI」を認識できたはず。色んなところに目を向けて、日常生活のどんなところでAIが使われているか探しておく。																								
評価方法	<table border="1"> <tr><td colspan="2">観点1 知識</td></tr> <tr><td>A</td><td>論点をしっかりと整理して記述できている</td></tr> <tr><td>B</td><td>論点をある程度整理して記述している</td></tr> <tr><td>C</td><td>論点があり整理して記述されていない</td></tr> <tr><td colspan="2">観点2 考察</td></tr> <tr><td>A</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td></tr> <tr><td>B</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td></tr> <tr><td>C</td><td>表層的な感想や意見にとどまっている</td></tr> <tr><td colspan="2">観点3 調べたこと</td></tr> <tr><td>A</td><td>知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた</td></tr> <tr><td>B</td><td>知りたいと思ったことを自発的に少し調べた</td></tr> <tr><td>C</td><td>調べていない</td></tr> </table>	観点1 知識		A	論点をしっかりと整理して記述できている	B	論点をある程度整理して記述している	C	論点があり整理して記述されていない	観点2 考察		A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている	観点3 調べたこと		A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた	B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた	C	調べていない
観点1 知識																									
A	論点をしっかりと整理して記述できている																								
B	論点をある程度整理して記述している																								
C	論点があり整理して記述されていない																								
観点2 考察																									
A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																								
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																								
C	表層的な感想や意見にとどまっている																								
観点3 調べたこと																									
A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた																								
B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた																								
C	調べていない																								
宿題指示	学びの記録（次回授業で回収）																								

授業日	4/30(木)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・AIの機能について知る ・AIをビジネスに活用している企業について知る		
時間 授業内容	5 限	前回の新聞の分類分けを3人1チームで話す 思い：「世の中でAIについてどんなことが話題になっているのだろう？知りたい！」 1つの方法：「新聞には当時話題のこと、日経デジタルには最新話題が書いているから、それらから共通項を抜き出して分類してみよう！共通項が分かればキーワードが得られる！」 【今回取った手法について】 1) 帰納法(的手法) = 同じような事象を複数見つけ、その共通点から結論を導く手法 長所：新たな広い知識を拡張できる 短所：論理的に必ず正しい結論が導き出せない場合がある (エラー値、例外、当てはまらないものがある) 学びの記録のフィードバック ⇒プリントをただ埋めればいいわけではない。調べたらすぐに出てくる問いはふさわしくない。 実際にAIが使われているサイトに触れてみる →機能紹介 自然言語処理 → 横浜市のごみに関するチャットボット 画像認識 → Google cloud vision AI 動画解析 → Microsoft Azure AI Video Indexer 音声認識 → Google Speech to text AI AI活用入門講座の動画「AIビジネスに活用している企業」を視聴する	

評価方法	観点1 知識	
	A	内容をしっかりと整理して記述できている
	B	内容をある程度整理して記述している
	C	内容があまり整理して記述されていない
	観点2 実体験	
	A	得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる
	B	得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる
	C	表層的な感想や意見にとどまっている
宿題指示	学びの記録 2 枚	

授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ AI をビジネスに活用している企業について協働して調べることが出来る		
時間 授業内容	AI 活用入門講座の動画「AI ビジネスに活用している企業」についての小テスト 1) 発表日: 5/27(火) 授業開始後 20 分間は準備時間とする 2) 発表時間: 5 分 3) 質問時間: 2 分 4) 発表形式: 4 つのスライド 概要／課題／ソリューション／効果 5) ルール: 「概要スライド」「課題」「ソリューション」「効果」の4項目のうち、1人1項目以上を話すこと。 6) 評価方法 : 相互評価の中からインパクト賞も選出		
評価方法			
宿題指示	発表準備		

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回																																																																																																																																																																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標																																																																																																																																																																										
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	準備 発表 5 分× 8 班 相互評価 企業が導入している AI の概要が明確さ （課題ソリューション効果の流れが明確） インパクトある内容 おっと、すげー、へー感、スライドのデザインなどではなく中身の内容で評価。質問は用紙に書いて次回提出																																																																																																																																																																									
評価方法	発表、相互評価表																																																																																																																																																																										
	<table><tr><td colspan="12">観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</td></tr><tr><td>A</td><td>5点</td><td colspan="10">企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である</td></tr><tr><td>B</td><td>3点</td><td colspan="10">企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td></tr><tr><td>C</td><td>1点</td><td colspan="10">企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="12">観点2 発表内容のインパクト</td></tr><tr><td>A</td><td>5点</td><td colspan="10">発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている</td></tr><tr><td>B</td><td>3点</td><td colspan="10">発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある</td></tr><tr><td>C</td><td>1点</td><td colspan="10">発表内容について、インパクトがあまりない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="12">観点3 訴求力</td></tr><tr><td>A</td><td>5点</td><td colspan="10">発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全量から強く感じられる。</td></tr><tr><td>B</td><td>3点</td><td colspan="10">発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる</td></tr><tr><td>C</td><td>1点</td><td colspan="10">発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない</td></tr></table>			観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ												A	5点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である										B	3点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である										C	1点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である																						観点2 発表内容のインパクト												A	5点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている										B	3点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある										C	1点	発表内容について、インパクトがあまりない																						観点3 訴求力												A	5点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全量から強く感じられる。										B	3点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる										C	1点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない									
観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ																																																																																																																																																																											
A	5点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である																																																																																																																																																																									
B	3点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である																																																																																																																																																																									
C	1点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である																																																																																																																																																																									
観点2 発表内容のインパクト																																																																																																																																																																											
A	5点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている																																																																																																																																																																									
B	3点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある																																																																																																																																																																									
C	1点	発表内容について、インパクトがあまりない																																																																																																																																																																									
観点3 訴求力																																																																																																																																																																											
A	5点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全量から強く感じられる。																																																																																																																																																																									
B	3点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる																																																																																																																																																																									
C	1点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない																																																																																																																																																																									

宿題指示	評価表、質問シート、ロイロノートアンケートに質問事項を入力
------	-------------------------------

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
	本時の具体的な目標 ・実際の AI の体験を通して、課題を解決する案を協働で考えることができる ・Scratch で画像認識の AI を作成することができる。		
時間 授業内容	5・6 時間目	・前回の授業の振り返り 巳波先生のゼミ生 4 名によるワークショップ 1 回目 ・5 分間のアプリ作成の動画を見る ・Scratch のデータを airdrop で iPad にダウンロード → Scratch 上でファイルを開き、「○△×」の画像認識を体験 ・8 つのグループに分かれ、画像認識を使った課題解決案を考える ⇒「誰のために」が抜け落ちることが多かったので助言いただく ・Scratch で実装を開始	
評価方法	途中経過のため、このワークショップの 3 回目で評価する		
宿題指示	ロイロノートに配信されている学習データのリセット方法をみしておく・実施しておく		

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・実際の AI の体験を通して、課題を解決する案を協働で考えることができる ・Scratch で画像認識の AI を作成することができる。 ・手順④発表の準備が時間内にできる。		
時間 授業内容	5・6 時間目	巳波先生のゼミ生 4 名によるワークショップ 2 回目 本時の流れ（前回の続き） ① リセットボタン実装 ② アイディア出し ③ 実装 ④ 発表準備 《発表の仕方》 ・1 班 3 分～5 分程度 ・PowerPoint スライド+デモンストレーション ⇒スライドの中身（最低限必要な情報） 概要・問題提起（アプリの目的）・実装手順・デモンストレーション 《評価軸》 ① 目的の明確度・達成度 ② 新規性 ③ 拡張性・将来性 ④ 発表の姿勢	

